



電気自動車に脚光、エコ・経済性が人気



※写真の一部を加工しています。

100%電気走行の時代到来

「京都議定書」の発効後、地球温暖化対策への取り組みが活発化。近年はCO₂排出量を抑えた自動車の発売が相次ぐなか、排出ガスを出さない「ゼロ・エミッション」がキーワードに。日本政府は、電気自動車（EV）の普及を急務とし、各方面に呼びかけている。11月には航続距離が280キロのEVも発表され、エコカー市場は新たな局面を迎えた。

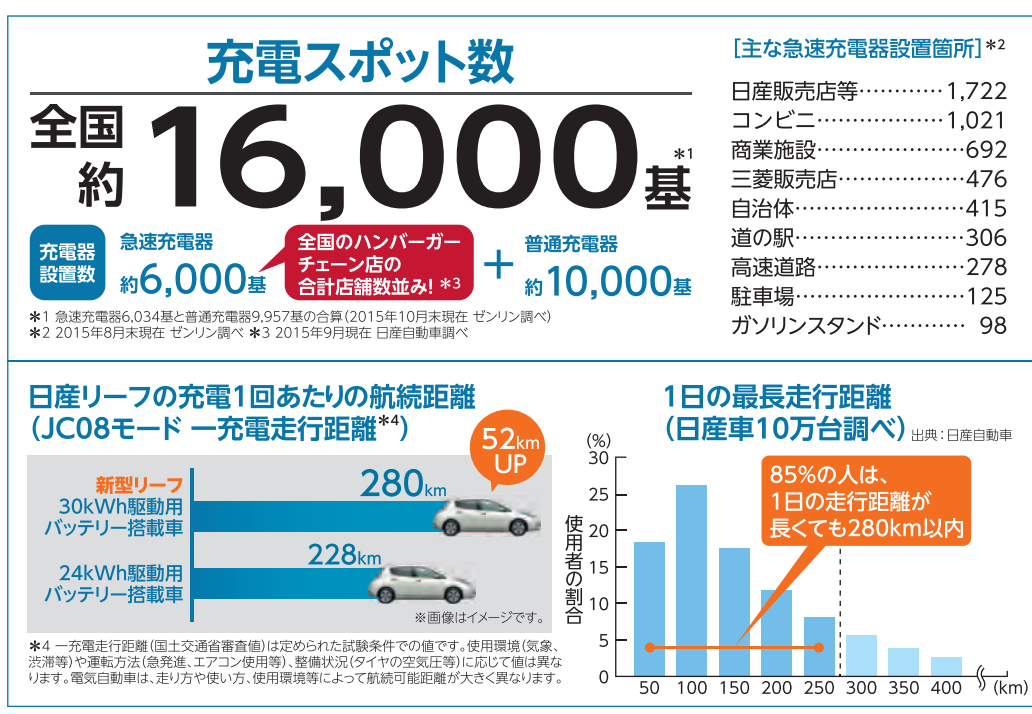
CO₂排出ゼロのEV 政府も補助金で後押し

開催中の国連気候変動枠組条約（UNFCCC）の「第21回締約国会議COP21」において、日本政府は2030年度までに温室効果ガス排出量を、13年度比で26%減らすことを目標案として掲げた。そこで経済産業省では、走行中にCO₂を排出しないEV普及を急務とし、30年に、モーター駆動のみで走行するEVおよびモーターとガソリンエンジンを併用するプラグイン・ハイブリッド自動車（PHEV）の新車販売台数の割合を全体の20〜30%に引き上げることを目指している（13年時点では約0.5%）。

最新のEVは 1日ほぼ充電なく走行可 充電器も約1万6千基

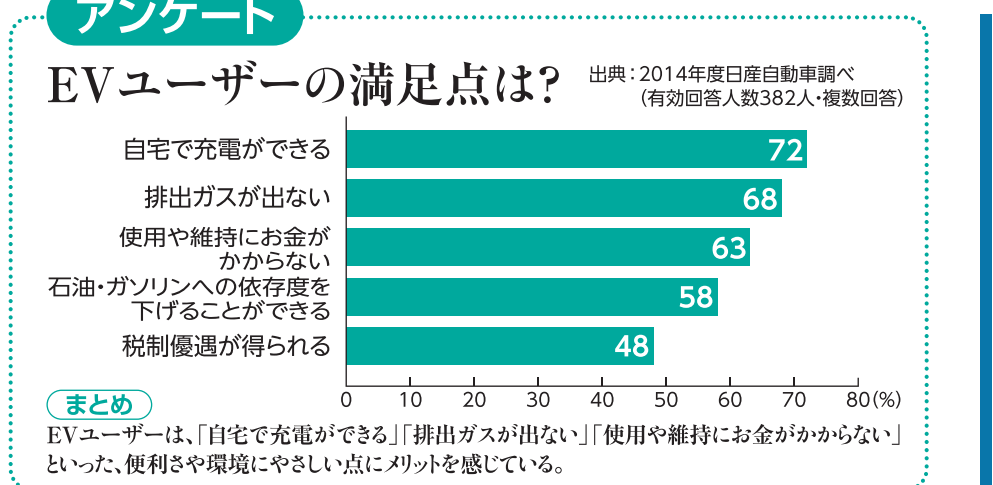
かつてEVは、航続距離や充電インフラが課題だった。しかし、近年は自動車メーカーの技術革新もめざましく、それらは払拭されつつある。例えば、日産自動車の最新型リーフは、バッテリー容量が増え、航続距離は最大280キロに伸びた（以前は202キロ）。日産自動車の調査では、自動車ユーザーの85%は、ガソリン車であるためや夏休みなどで長距離を運転

しても、一日の走行距離は280キロに満たないという。新型リーフの航続距離が280キロになったということは、もはや日常の使用で電池切れの心配はほとんどなくなる計算だ。さらに、充電設備の購入費および工事費に対する国の補助金が拡充し、充電インフラは急ピッチで整備が進む。また、政府は全国で105カ所ある道の駅全てに充電設備を設置する計画だ。すでに高い設置数を達成している



EVを緊急時にも活用

災害など、もしもの時でもEV内のバッテリーにある電力を活用することが可能な「ビークル to ホーム（V2H）」の充電器。東日本大震災以来、家庭用蓄電池の需要も高まっている。また、一般家庭だけでなく、企業でも万が一の自然災害などの対策として、リーフとLEAF to Homeを導入するところが増えている。



EVユーザーの声

日産リーフ所有 千葉県・会社員 杉本さんご夫妻 加速の良さに一目ぼれ

ディーラーで試乗した際に、加速の良さにひかれたのがきっかけで、約3年前に購入しました。静かである心地も良いですし、走っているときはCO₂をまったく出さず、環境に貢献しているという気持ちが良いです。購入する前は充電に不自由するのでは、と不安もありましたが、どんどん充電器の数が増えていきました。カーナビに充電スポットが表示されるので、遠出の時も安心して利用できます。ぜひ、他の方にも一度は乗ってもらいたいクルマです。

商用EV e-NV200など計9台を所有 NPO法人 ぎふ村 年間約400万円を削減

岐阜県恵那市・中津川でデサービス運営しています。朝晩の送迎を日産のEVに切り替えたところ、ガソリン車に比べて燃料費が約8割削減でき、年間約400万円ものコストダウンができました。ハイブリッドと比べても、コストは雲泥の差です。（小笠原理事長）

EVは非常に静かで、利用者の皆さんと会話しやすいですね。この仕事はコミュニケーションも大切なので、話し声が聞き取りやすいのはうれしいです。（送迎担当：真辺さん）



NISSAN Innovation that excites

NEW NISSAN LEAF

100% 電気自動車 新型日産リーフ

常識をくつがえす加速力、さらに延びた航続距離。電気自動車の時代は、もう走り出している。技術の日産が、人生を面白くする。

ELECTRIFY THE WORLD

| | | |
|--------------|------------------|------------|
| S/3,122,280円 | 30kWh駆動用バッテリー搭載車 | 航続距離 280km |
| S/2,728,080円 | 24kWh駆動用バッテリー搭載車 | 航続距離 228km |

特別価格 245,808円